

東海支部だより

全国厚板シェアリング工業組合
東海支部

東海支部上海視察旅行を開催

2008年11月12日(水)より4日間の行程で中国上海企業視察旅行を開催しました。
中部国際空港”セントレア”を午前9時に出発のため、早朝7時には参加メンバー全員集合した。
今回の視察旅行は、1日目より企業視察ということもありメンバー全員がネクタイ・スーツ姿で旅行のスケジュール・注意事項・搭乗手続き等の説明を旅行社より受けていました。

(事務局 堀場 記)

以下は【中国上海企業視察報告書】として参加メンバーの谷より報告します。

(記)

【中国上海企業視察報告書】

2008年11月21日
全国厚板シェアリング工業組合東海支部
支部長 川口克彦

1. 日程

2008年11月12日(水)～15日(土) 3泊4日

2. スケジュールおよび訪問先

11月12日(水)	午前	中部国際空港発(9:00)	
	午後	①美達王(上海)有限公司 講演 ②上海田中機機有限公司 見学	<上海泊>
11月13日(木)	午前	上海市から浙江省杭州市に移動 ③杭州神鋼建設機械有限公司 見学	
	午後	④上海上船川田鋼結構有限公司 見学	<上海泊>
11月14日(金)	午前	上海市から江蘇省昆山市に移動 ⑤三一重機有限公司 見学	
	午後	市内に移動	<上海泊>
11月15日(土)	午前	市内観光(朱家角水郷古鎮)	
	午後	中部国際空港着(21:00)	

3. 参加者名簿(計15社16名)

(株)青山商店	専務取締役	青山 高久
熱金鋼業(株)	代表取締役	山村 熹
有川シェアリング工業(株)	代表取締役	有川京司郎
奥田スチール(株)	専務取締役	小島 康彦
鬼頭鋼材(株)	取締役会長	鬼頭 洋史
三和鐵鋼(株)	代表取締役	川口 克彦
〃	常務取締役	谷 清博
鈴将鋼材(株)	代表取締役	鈴木 康司
中央スチール(株)	代表取締役	森田 勝也
中部鋼板(株)	加工販売部長	加藤 一修

東海鋼材工業 (株)	取締役	高田 克己
JFE 鋼材 (株)	取締役所長	吉住 浄
萩野メタルワークス(株)	専務取締役	萩野 稔
丸 八 鋼 材 (株)	代表取締役	佐野 和彦
(株)三原商事東濃金属	代表取締役	三原 吉城
明 和 鋼 業 (株)	代表取締役	大畑 光生
		以上 16名

4. 企業見学結果

①美達王(上海)有限公司 講演(講師;西野哲副総経理)

最近の中国鉄鋼情勢について講演をしていただいた。中国の粗鋼生産量は1996年に初めて1億トンを超え、2007年には4億8千万トンまで急伸した。中国では全国に規模の異なる数百の製鉄所が乱立しているが、有力大企業を核にしたグループへの再編が進んでおり、2007年の粗鋼ランキングは下記の通り。

第1位	宝鋼集団(上海市)	約2800万トン
第2位	鞍本集団(遼寧省)	約2200万トン
第3位	江蘇沙集団(江蘇省)	約2100万トン
第4位	唐鋼集団(河北省)	約2000万トン

一方、鋼材市況は、世界経済減速の影響を受けて、需要が減少しており、鋼材価格は大きく下落している。粗鋼生産量も2008年6月をピークに減少局面に入っており、店売り流通では鋼材価格の下落を睨んで買い控えに出ている。建築用鋼材の店売り価格を例にとれば、足下の3ヶ月間で、約1800元(30000円)/トン下落し、鉄鋼メーカーは原材料高の影響で赤字生産に陥っている模様である。

今後の中国鋼材需要については、上海万博、内陸部開発、四川大地震復興事業などにより、年間5億トン規模での持続が期待されており、当分底堅いという見方もある。

②上海田中機機有限公司 見学(受入者;手塚佑司総経理)

【所在地】上海市南匯鹿園工業区鹿吉路92号

【概要】 2004年に日本日酸TANAKAが設立。レーザー、プラズマ、ガス切断機を製作。年間生産台数は約50基。従業員は約35人。中国では50社のメーカーが年間合計1500基の切断機を製作している。



写真-1 上海田中機機有限公司見学

③杭州神鋼建設機械有限公司 見学(受入者;成相哲郎副総経理)

【所在地】浙江省杭州市杭州經濟技術開發区22号大街1号

【概要】 2004年設立。敷地面積14万平方米。杭州經濟技術開發区は中国で最大級規模で総面積は約100平方キロ米、外資系企業が約550社、内日本企業が約80社進出している。杭州神鋼建設機械の油圧ショベルの生産能力は年間約3500台。主力機種は20トンショベル(バケット容量0.8立方米)



写真-2 杭州神鋼建設機械有限公司見学

杭州神鋼建設機械は建設機械に使用する切板鋼材は、隣接する美達王鋼鐵制品加工有限公司で切断加工をおこなっているが、今回は先方の都合により見学はおこなわなかった。
中国のショベル需要は1999年の4800台から、2008年は57000台に急増した。
外資系10社のシェアは90%を占める。

④上海上船川田鋼結構有限公司 見学(受入者;橋本利幸総経理)

【所在地】上海市松江区叶榭鎮東勤村

【概要】 1998年に日本川田工業などが設立した鉄骨橋梁メーカー。
日本の大臣認定を取得しており、日本への輸出が可能となっている。
敷地面積6万平方米。工場面積5000平方米。従業員は約130人。
年間生産能力は7000トン。
NC切断機、開先加工機、孔明け機、自動溶接機などを保有し、すべて自社にて素材を加工し、鉄骨製品の組み立てをおこなっている。

⑤三一重機有限公司 見学(受入者;任平理事)

【所在地】江蘇省昆山氏昆山經濟開發区環城東路三一産業園

【概要】 湖南省の三一集団の傘下企業。6トン～200トン級の油圧ショベルを製造。
敷地面積140万平方米。従業員は約5000人。
油圧ショベルの生産では中国企業としては国内最大。欧州、米国にも輸出している。
同一敷地内に鋼材の切断工場があり、レーザー、プラズマ、ガス切断機、開先加工機などを保有し、油圧ショベル用部材を自社にて加工している。
レーザー切断機は概ね50米長の走行レールに2基ずつ据え付けられている。

4. 企業視察を終えて

上海、杭州の鉄骨メーカー(FAB)、建設機械メーカー、溶断機器メーカーなど計4社の工場を見学した。中国では日本のようなシャリング業界が形成されておらず、最終メーカーが切断機器を購入し、自ら溶断加工を実施している。厚板材料の供給体制、注文から出荷に至るまでの管理体制、顧客へのサービス体制の違いなどに起因すると思われるが、詳細については引き続き調査することが望ましい。

中国のGDPはここ数年は12%前後であったが、2008年には急ブレーキが掛かり、9月には9%に低下した。経済の指標となる粗鋼生産量も2007年実績に届かない可能性がある。

中国政府は米国の金融不安に端を発した経済不況を乗り切るため、4兆元(60兆円)の緊急財政出動を決めたが、上海万博などの好材料があるものの、予断を許さない状況にある。胡錦濤政権は2期目に入っているが、国内経済格差問題、チベット問題、四川大地震の復旧、産業高度化変換問題、省エネ・環境問題など多くの課題が山積しており、かつてない試練に直面しているといえよう。

今回の上海企業視察では、巨大なビル群や洪水のような車社会など中国の活気のある発展状況をつぶさに観察する一方で、中国経済の陰りを垣間見ることが出来た。そのため、中国の高度成長に依存してきた日本経済の先行きに不安を感じる事となった。

以上

(文責;三和鐵鋼(株)／谷)